

## 麻疹 (はしか)

麻疹（はしか）は、大変に感染力が強く、そして重症になる病気です。昔、栄養状態の悪い子どもが多い時代は、「子どもの命だめし」などと呼ばれ、恐れられていました。

ワクチンで予防できるようになった現在でも、日本で年間 50 人ほどの子どもたちが、命を落としています。

満 1 歳をすぎたらすぐに麻疹・風疹混合予防接種を受けましょう。



## 麻疹の内攻

麻疹（はしか）が重症になると、全身の状態が急激に悪くなり、顔色は真っ青、手足は冷たく、ぐったりした状態になります。こういった「末梢循環不全」におちいると、それまで見られていた発疹（ほっしん）が消えてきます。このことを古くから「麻疹の内攻」とよび、あたかも、麻疹のブツブツが、体の中に入り込み、悪さをしているようにイメージしていました。

もちろん、良くなってきて発疹が消えてきたのなら安心ですし、この時は本人はニコニコしているはずです。



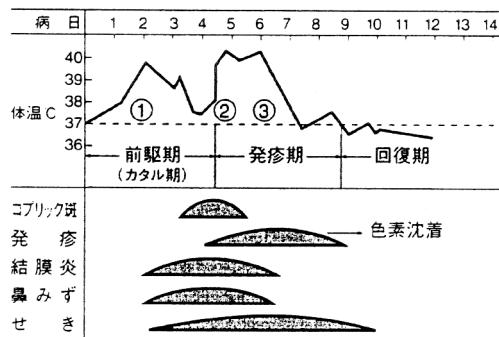
# はしか（麻疹）



## はしかは大病です

予防接種を受けていない1歳前後の赤ちゃんが多くかかります。  
うつる力が強く、とても重い病気です。

- ①はじめの2~3日は、熱、咳、鼻みず、眼やになど、かぜと同じ症状で、この時期に“はしか”と診断するのはむずかしいものです。
- ②いったん熱が下がり、再び高熱が出ると同時に、全身に発疹が現われます。
- ③発疹が現われてからも、さらに4~5日高熱が続きます。



## 家庭で気をつけること

- ①高い熱：熱が続くときは熱さましや氷枕を使って快適にすごせるようにしてください。「はしかは冷やすな」というのは迷信です。
- ②強い咳：咳止めを処方しますが、それでも強い咳が続けます。
- ③食べ物：食欲がなくなるので水分を十分に補い、消化のよい、口当たりのよいものを与えるようにしましょう。
- ④入浴：発疹がうすくなり、咳も少なくなって熱がなければ、入浴してもよいでしょう。



## 次の診察は

はしかは肺炎や脳炎を合併することがあるので、治るまでは目が離せません。先生に指示された日時に受診してください。

## ほかの子にうつしたかもしれない

予防接種を受けていない子が麻疹の子と接触すると、感染力が強いので麻疹にかかることが十分予想されます。こんな時は3日以内にワクチン接種を受けると麻疹になることがある程度防ぐことができます。また、ガンマ・グロブリンという注射を使うこともあります。

麻疹のお子さんはほかの子に接触しないよう、厳重に隔離をしていて下さい。

## 麻疹の予防注射

母親からもらった麻疹に対する免疫は生後半年くらいでなくなり、麻疹にかかりやすい状態になっています。満1歳から公費による麻疹の予防接種を行っています。

1歳未満でも、保育園での集団生活をしているときはワクチンを受けておくことをお勧めします（任意接種）。

なお、平成18年度より麻疹と風疹の予防接種は混合ワクチン（MR二種混合）を使うことになりました。また、生後1歳～2歳未満に1期、小学校入学前1年間に2期を行う「2回接種法」が日本でもようやく導入されました。